

イセエビ標識放流調査

一ノ宮 誠・天真 正勝

イセエビは本県南域における重要な漁業対象種となっている。過年度に引き続き本種の移動、分布等の生態を明らかにする目的で海部郡由岐町阿部地先(以下阿部地区という。)に標識放流を行なったので、放流後の再捕状況を報告する。

この一連の調査に際して椿泊、阿部、東由岐、日和佐町、牟岐町、鞆浦及び穴喰漁業協同組合の関係者の方々には大変お世話になった。ここに深謝する。

用語の定義

本県のイセエビ漁は刺網によって行われ、禁漁期間は徳島県漁業調整規則により 5 月 15 日から 9 月 15 日までとされている。放流場所である阿部地区では 10 月上旬に操業が開始される。解禁後の一般的漁獲パターンは、解禁直後の約 1 ヶ月間で大半が漁獲され、その後は漁獲による資源の減少や水温の低下等により漁獲量は減少する。そして翌年の 4 月頃から水温の上昇とともに漁獲量の増加がみられ、5 月 15 日に終漁するという形をとる。そこで、本報においては漁期を漁獲量の減少する冬季で区切り、解禁から 12 月 31 日までの年内の漁期を「秋漁期」、翌年 1 月 1 日から 5 月 15 日の終漁までを「春漁期」とそれぞれ呼ぶことにした。

材料及び方法

阿部地区において漁獲、蓄養されたイセエビ (CL42~68mm) を標識放流に用いた。標識は、頭胸甲背面と第一腹節の境界にチューブ型のタグをタグガンにより装着され、装着後、頭胸甲長測定及び第 5 胸脚基部の交接器の有無による雌雄の判定を行い、直ちに放流した。放流場所は、阿部漁港内の防波堤 (水深 8~10m) とした (ここは禁漁区として漁業規制が行われている)。再捕及びその情報は漁業者からの報告によった。再捕されたイセエビについては、可能な限り水産試験場職員が確認し、頭胸甲長等の測定を行なった。なお、放流群の放流場所、放流日、放流個体数の概要を表 1、放流時の頭胸甲長組成を図 1 に示した。

表 1 標識放流及び再捕状況

放流場所	由岐町阿部漁港内テトラポッド	
放流日	1997 年 5 月 16 日	
使用標識	チューブ型タグ	
放流個体数	雄	344
	雌	256
	計	600
放流時頭胸甲長(mm)	雄	55±5.2
	雌	57±4.8
	雄雌込み	56±5.1
再捕個体数	雄	115
	雌	42
	計	157
再捕率	雄	33.4%
	雌	16.4%
	雄雌込み	26.2%

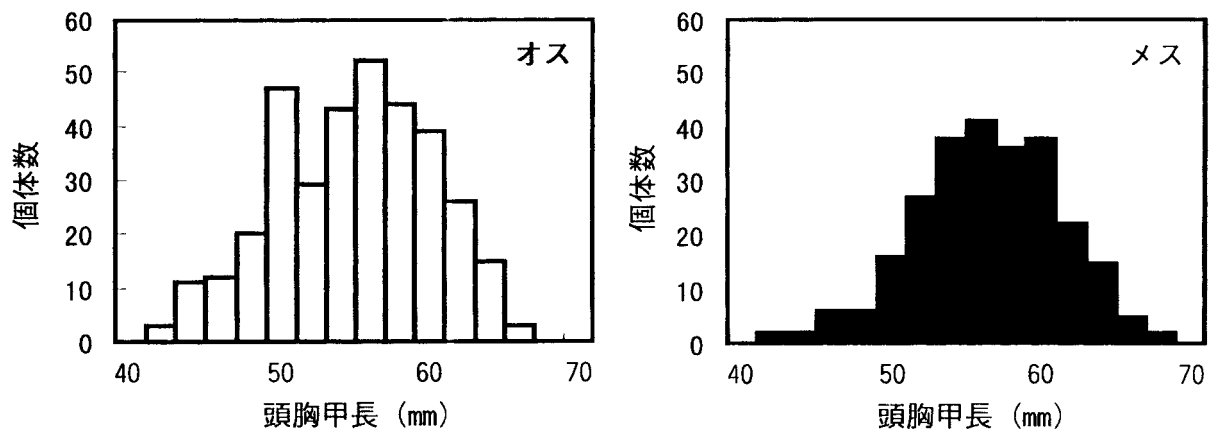


図 1 放流群の放流時頭胸甲長組成

結果及び考察

1998 年 3 月 31 日現在までの再捕結果の概要を表 1, 雌雄別の移動距離ごとの再捕状況を表 2, 3 に示した。また, 雌雄別の再捕場所を図 2, 3 にそれぞれ示した。当放流群は, 雌雄ともに秋漁期においてその大半が漁獲された。その後, 春漁期に入ると再捕個体数は減少し, 雄については再捕個体数の 3.5%, 雌については 4.8%が漁獲されたのみであった (表 2, 3)。この原因としては, 秋漁期の漁獲による放流個体数の減少, 水温の低下等が考えられた。今回の放流において, 1998 年 3 月 31 日現在までの再捕率は 26.2%であり, 過年度放流群の再捕率とほぼ同様の結果となった¹⁾。移動距離については, 再捕個体の大半 (雄 93.9%, 雌 92.9%) が放流地点から 3km 以内の阿部地区漁場で漁獲された。(表 2, 3)。阿部地区外に移動した個体は僅かであり, 雄では 7 個体, 雌では 3 個体が確認された。この内, 阿南市蒲生田岬沖で再捕された雄の 1 個体を除き, 他のものは全て南下していた(図 2, 3)。南下した個体の最長移

動距離については、穴喰町穴喰湾で 45km、北上した個体については 14km であった。また、漁期期間別による再捕場所の違いは、特にみられなかった（図 2, 3）。これらの結果から、漁獲資源加入後のイセエビの大半は同一地先内に留まるものと考えられた。また、地区外に移動したものについては、その大半が南下しており、この傾向は、過年度放流群においてもみられた¹⁾。このような移動の原因は明らかになっておらず、今後の解明が必要である。

表2 放流群の移動距離別再捕状況（オス）

再捕期間\移動距離 (km)	～ 3	～ 5	～ 10	～ 20	～ 30	～ 40	～ 50	計	率
秋漁期再捕個体数	104	1	0	2	1	1	2	111	96.5%
春漁期再捕個体数	4	0	0	0	0	0	0	4	3.5%
計	108	1	0	2	1	1	2	115	100.0%
率	93.9%	0.9%	0.0%	1.7%	0.9%	0.9%	1.7%	100.0%	

表3 放流群の移動距離別再捕状況 (メス)

再捕期間\移動距離(km)	～3	～5	～10	～20	～30	～40	～50	計	率
秋漁期再捕個体数	37	0	0	0	2	0	1	40	95.2%
春漁期再捕個体数	2	0	0	0	0	0	0	2	4.8%
計	39	0	0	0	2	0	1	42	100.0%
率	92.9%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	2.4%	100.0%	

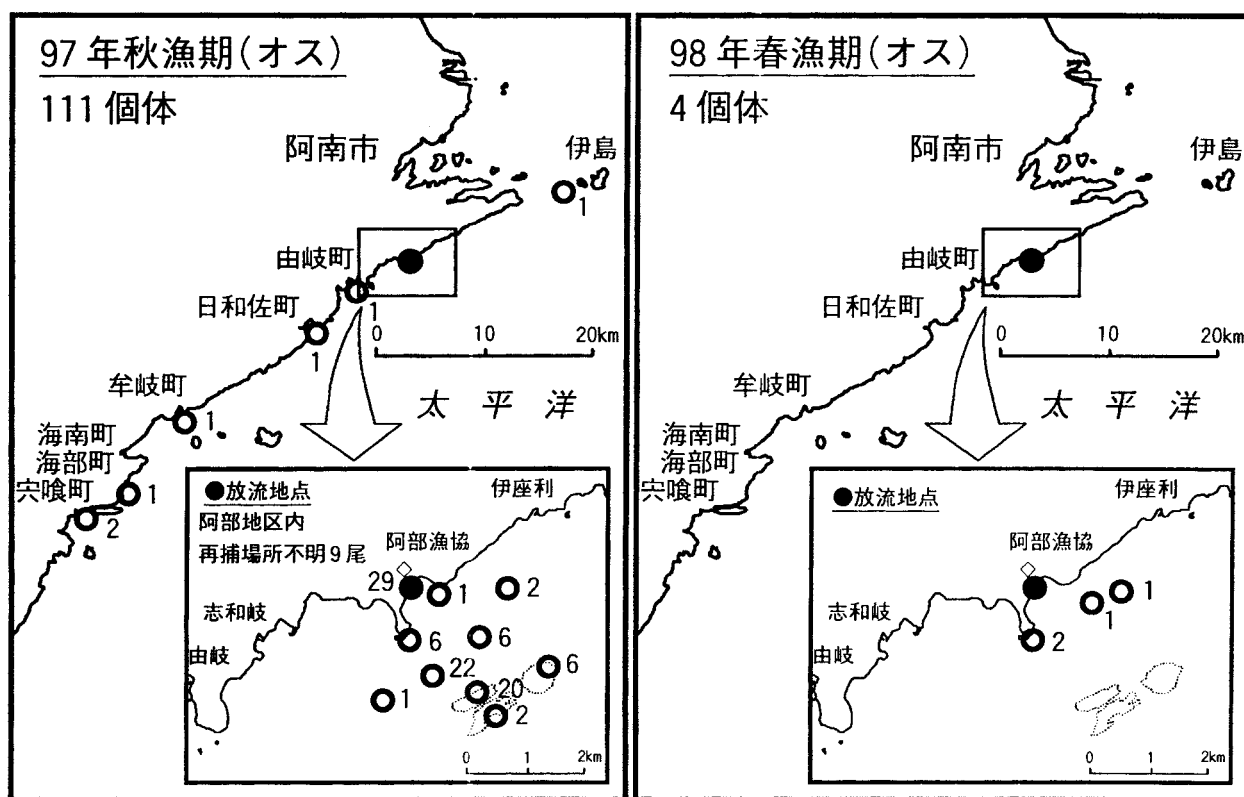


図2 放流群の期間別再捕場所（オス）

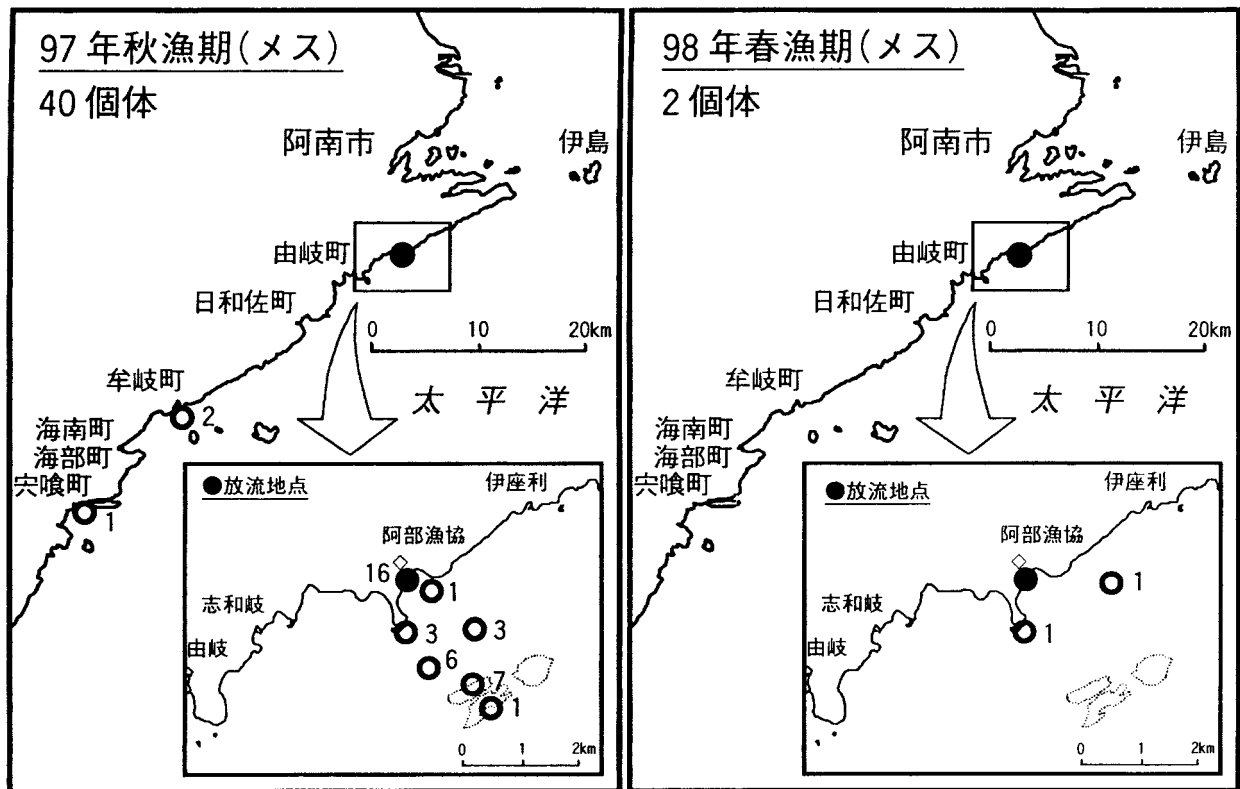


図3 放流群の期間別再捕場所(メス)

文献

- 1) 高木俊祐・天真正勝・山添喜教(1997):イセエビ標識放流調査, 平成8年度徳島水試事業報告, 43-46。